広報 下之郷

№５５

発行日　２００５．９．２
編集　郷づくり広報部会

＝自然を愛し　人を愛する
豊かな心を　育てよう＝

甲良町夏祭り　7／30

目次:

郷づくり全開２００５夏（木造・河川景観）	1
〃　（イベント・花卉育成）	2
戦後６０年　戦没者墓碑改修	3
おたがいさまのまちづくり講座　地震対策	4
地蔵盆	5
ふるさと大発見	6
人権標語に挑戦　ひとこと	7

私たちの区

2005. 8月1日現在

*戸数　211戸

*人口　男408　女433
計　841人

郷づくり全開2005夏

《木造、環境美化推進部会》

六月二十五日(日)、区内およびスポーツ公園の樹木の消毒を行っていただきました。

また、七月三日(日)の午後、集会所、桃源郷の松や生け垣の選定作業を行っていただきました。

当日は雨の降る中の作業でしたが、休む間も惜しんで終日作業していただきました。

《河川景観推進部会》

老朽化してメンテナンスの必要があった水車を修理していただきました。

また、スポーツ公園のイルミネーションを一層豪華なものに改修していただきました。

鯉を野鳥から守る防護ネットも集会所とスポーツ公園の池にかけてくださいました。

《イベント企画推進部会》

四月二十九日にとうもろこしの種をまき、五月十四日に五千本を定植、七月二十四日に収穫しました。今年は六月上旬まで雨が降らず、生育不良の実が多かったのは残念ですが、味の方はたいへん甘くおいしいものでした。

区内の販売では、約四十人の方に買っていただき、七万円程の売上げがありました。

七月三十日には、甲良町夏祭りに参加。河川部会と共同で焼きトウモロコシ、スーパーボールつりを出店しました。

テントの屋根にはイルミネーションを飾り、夜になると下之郷のテントがひときわ目をひき、

九時の閉店までお客が絶えない盛況ぶりでした。

《花卉育成推進部会》

花壇コンクールの審査

八月二十日、花壇コンクールを実施しました。各組が丹精込めて育てられたサルビア。厳正なる審査の結果、次の各組が入賞されました。

金賞　第五組
銀賞　第一組
努力賞　第二組　第九組　第十一組
第十二組　第十三組

【金賞の第五組花壇】

戦後60年

太平洋戦争終結から六十年目の夏を迎えました。八月十五日早朝、戦争で犠牲となられた戦没者の方々の追弔会が、改修された墓地前でしめやかに行われ、遺族の方々もお参りされました。

戦没者墓地の改修については遺族会のかねてからの願いでありましたが、戦後六十年の節目の今年、若松先生の寄進と区からの助成金により着工の運びとなり、七月初旬、見違えるような立派な墓地に改修されました。

【区長挨拶】

今や戦後生まれの者が大半となり、かの戦争についての記憶は薄れ、風化する一方です。そして今、日本では、虐待、親殺し、子殺しといった、六十年前には考えられなかったような悲惨なできごとが起きています。

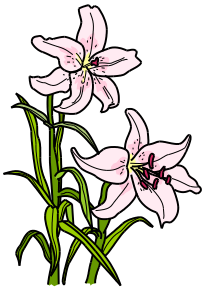
今年、このように立派に改修されたことを契機に、あの悲惨な戦争を二度と繰り返さないという強い思いを孫子にまで伝えていかねばならないという思いとともに、日本のあるべき姿を考えていかねばならないのではないでしょうか。

今の日本（下之郷）の繁栄の礎として貴い犠牲になられた方々を私たちは忘れてはなりません。

ここに、謹んで戦死された方々のご芳名を掲載されていただきます。

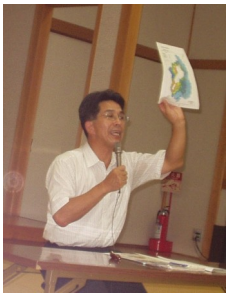
戦没者ご芳名

松宮源一(等)
西澤佳久(伸浩)
若松嘉一郎・繁信(嘉一)
二階堂正雄(正七)
上野清右ヱ門(清蔵)
井戸牛吉(良夫)
松宮牛次郎(利治)
川並彦三(繁彦)
川並幸一(孝一)
神辺幸次郎(幸夫)
川並義一(和男)
川並勘五郎・重男(勇雄)
古川貞三(耕資)
松原幹三(利信)
阪東長三郎(清治)
上野正太郎(正之)
時永忠三(清)
阪東辰三(康生)
井戸米吉(喜平)
西堀永吉(良三)
松宮久右ヱ門(清太郎)
辻忠三郎(武男)
藤居一男(桂三)
松宮留吉(増治)
西堀傳次郎(與一)
安澤正弘(英治)
辻忠兵衛(忠一)
若松増三郎(健一)
西堀平左ヱ門(光生)
藤居惣次郎（和子）
古川新造（浩之）
上野定信（信男）
松宮勝次郎（伊三郎）

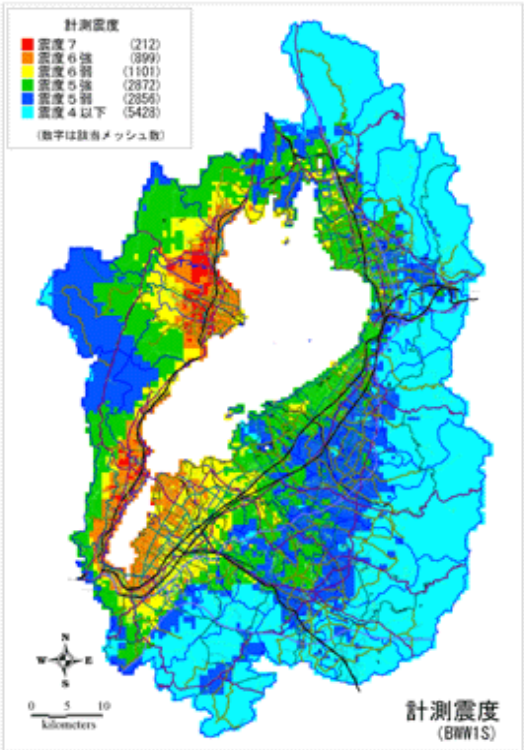


おたがいさまのまちづくり講座

＝地震から身を守る＝



七月十五日（金）、「おたがいさまのまちづくり講座」が開かれ、「滋賀県の地震防災対策」と題して県民文化生活部総合防災課地震対策室長の青木達氏の講演がありました。



甲良町に大きな地震は来ない？

いいえ、滋賀県湖西地方で阪神大震災クラス、震度７の地震が起きる可能性は非常に高いのです。（全国で六番目に高い発生確率）

私たち甲良町の場合、湖西地方の地震とともに、東南海地震（紀州沖地震）によっても震度５弱程度の地震に襲われる可能性があります。震度５弱とは、〔棚の食器が落ち、窓ガラスが割れることがある〕ですから、大変危険です。

過去の地震被害

■濃尾地震（一八九一年）
滋賀県東北部３０％が激震、残りの南西部７０％が烈震地域となる。

■姉川地震（一九〇九年）
死者　三五人
負傷者　六四三人
全壊家屋　九七二戸
半壊家屋　二三六七戸

地震が起きたら？

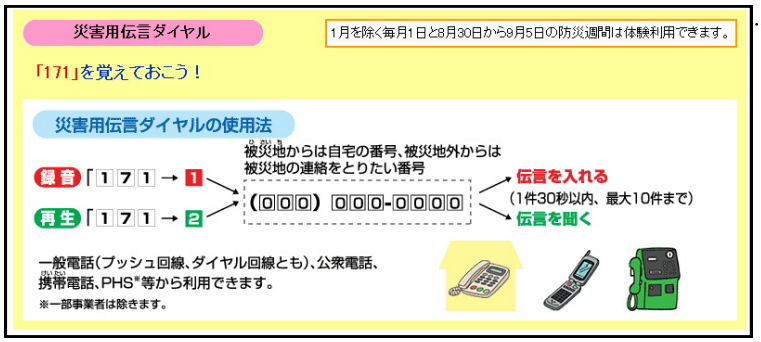
《発生》
身を守ることに徹します。机やベッドの下に身をかくし、寝ているときはふとん・枕（まくら）で頭を守ります。

《避難》
地震は二十秒でおさまります。ざぶとんで頭を守って逃げましょう。

避難するとき、次のことに注意しましょう。
・火を消す
・電気のブレーカーを落とす
・屋外に出るときは割れたガラスや瓦等が落ちてこないか十分注意します。

■緊急避難場所
下之郷農事集会所が避難場所です。

八月十六日にも宮城県で地震がありました。「いつか来る」という危機意識をもって、日頃からできる防災対策をしておきましょう。



地蔵盆

八月二十日、地蔵盆が行われました。

昼間には河川部会企画による鯉の放流があり、夕方からは楽しい催し物。ゆかた姿の女の子たちや親子連れの子どもたちが集まり、出店やビンゴゲームなどで下之郷馬場はにぎわいました。

鯉ヘルペスの流行で、激減してしまった区内の鯉。子どもたちの放流した鯉が大きく育ってまた区内の川を悠々と泳いでくれますように。

下之郷の

ふるさと大発見

沿革

このひろばは下之郷耕地組合が管理していた灌漑用水南池跡を整備したものです。

そもそも耕地組合の揺籃を尋ねると下之郷の田用水の慢性的不足にあると考えられます。特に大正十一年から三ケ年続いた大旱魃に潅漑用水池の掘削の必要性を痛感協議した結果、桂城川掛リを除き村の西にニケ所池を掘ることに決定し、大正十四年二月に下之郷耕地組合を組織、三月に総会を開催、先ず南池の工事に着工、同年十一月二十八日に完成、十二月には北池の工事着工と矢継ぎ早の対応がなされたのです。

昭和二十一年に犬上ダムが完成しこの南北両池の目的は終リますが、昭和二十九年に簡易上水道の水源として再び脚光をあびます。

しかしその後昭和四十三年の甲良町上水道の完成に伴い用水池は完全に終焉を迎え長期間放置されたままでしたが、平成十六年に農村総合整備モデル事業の一環としてちびっこひろばとして整備されたものです。

平成十七年三月吉日

下之郷区長記録より

大正十三年の項

五月二十六日大字八町区長外三名番水の件につき相談に来る……用件は本年より大字四十九院、石畑は**池水にて田用水は充分故**川水の必要なく又経費の負担に困る故取下せず鬮（くじ）も引かぬと、八町は従来どおり番水の取下げ致し度故必要の場合は単独番水の願出の承認を前以て頼みに来た……とのこと……下之郷は未だ池も無く……云々

八月十九日明七ツ時出鐘なる二の井側に於いて不穏の兆有り一同一の井に走る……云々

八月二十二日朝金屋有志より下之郷の現状気の毒故の話あり云々……金屋の番水貰う

※周辺村にて石畑用水池（現在も稼働中）がはじめて掘削された

大正十四年の項

そもそも耕地整理組合の起因は大正十一年同十二年同十三年の三ケ年引き続き大旱魃に鑑み潅漑用水池の必要を感じ同十三年十二月各川筋の自作農者よりより協議し其の結果区長へ申出られ協議員の協議を経て地主一同へ協議候処地主側に於いても当時耕地の剰余を来しつつある時なれば水を潤沢にして耕作上の安定を測るべき必要あり土地所有者一同集会に集会を重ねて愈々村内一致を以て**耕地整理組合を組織し灌漑池の掘削に協議概ね纏る**然る所桂城川掛りに於いて纏り兼候　宮の東に池を堀り逆水にて桂城川へ出す協議云々…

に付き桂城川掛りを除き共通経費を以て村の西に**二ケ所の池を掘る事に協議決定**し漸く耕地整理組合の基礎確定せり

一二月十日午後一時各川筋委員集会耕地整理組合長上野孫太郎ほかを選出

二月十三日滋賀県庁へ願出

三月一日県技手二名来郷南北ニケ所の敷地指定せられたり

三月六日午後一時より総会を開催

三月十日南池地鎮祭執行　工事着手

十一月二十八日工事完成

十二月八日北池地鎮祭執行　工事着手（完成の記録欠如大正十五年中に完成したものと考えられる）

人権標語に挑戦！

今月号は、「難解語に挑戦」はお休みし、「人権標語に挑戦」です。

毎年、甲良町で人権標語の募集があるのですが、下之郷からの応募があまりありません。

そこで、下之郷広報愛読者の皆さんにご協力をお願いしたいのです。

人権に関する標語ならどんなものでも結構です。応募いただいた方全員に、区同推協から記念品を差し上げます。

また、その作品は町にも応募させていただくこととします。

ぜひ、ふるってご応募ください。

人権標語の例をいくつかご紹介します。それを参考にして、すてきな標語をお考えください。

育てよう　思いやりの心　まず家庭から

広げよう　笑顔あふれる　人の和を

やさしさは　人と人とを　つなぐもと

人権を　守ってつくろう　明るい未来

知らんぷり　見て見ぬふりも　いじめだよ

ちがうとこ　いろいろあるけど　みな人間

気がついた　その時つみとる　差別の芽

その言葉　相手は心で　聞いている

ふっと出た　言葉で　はっと我を見る

短歌クラブ７月の詠草から

氏名のみ文芸欄にて知る人のここ四　五か月名前の見えず　川並　千町

わが帰りを待ちて息子らが地震ニュース聞き案じしが心うつ　上野　りゑ

てきぱきと動いてくれる嫁たちありし日偲ぶ夫三回忌　藤居　和子

沖縄より大正琴の友来るちうに集いて手土産作る　川並みよ子

編集後記

昨夏にも増して暑かった夏も過ぎようとしています。一時は、平成六年の時のような大干ばつになるのではと心配されましたが、幸い七月以降適度の雨にも恵まれ、豊作の秋が期待されます。夏祭り、地蔵盆と毎年恒例の行事が滞りなく行われていること、そのことが平和の証であることを戦後六十年目の夏、改めて感じています。

■毎回賞品をいただきありがとうございます。答を出すのが楽しみでいますので賞品はいただかなくてもいいですヨ。（川並孝裕）

■天災、人災と地球の上は苦難ばかり。人間の本質を問われているように思えてなりません。年寄りには何も分かりません。どうぞよろしくお願いします。（上野文子）

■体力の低下で毎日のように去年の今頃はこんなに暑いことなかったなーって繰り返し言うけど、六十年ほど前の熱帯夜って何度ぐらいだったのでしょうか？ちょっと教えていただけませんか。（阪東きぬ）

■今回の漢字は難しかったです。こんな漢字だったのかと新発見もありました。（安澤亜恵）

■このあいだ、他所より下之郷へ来られた方が、「何という美しい字ですネ。川の中にまで花が咲いて。誰が世話をされるのですか？」と感心されました。わがことのようにうれしく、ご報告いたします。（川並千町）

前回のクイズの答

- ●枇杷　（びわ）
- ●檸檬　（れもん）
- ●瓢箪　（ひょうたん）
- ●藺草　（いぐさ）
- ●芥子　（けし・からし）
- ●甘藍　（かんらん・ｷｬﾍﾞﾂ）
- ●辣韮　（らっきょう）
- ●梔子　（くちなし）
- ●石榴　（ざくろ）
- ●茄子　（なす）
- ●椰子　（やし）

正解者の皆さん

川並孝裕さん	上野文子さん
西堀利江さん	安澤美佐子さん
安澤亜恵さん	川並千町さん
古川きささん	安澤清則さん
上野美幸さん	二階堂恵子さん
上野璃子さん	阪東きぬさん
木村　和さん	西堀はつ子さん